

いいもの成らせるさくらんぼ便り

マメコバチ 特集号 マメコバチが減少している！増殖対策を徹底しよう！

- ◆ 近年、「マメコバチの激減」や「受粉樹の不足」で、「成りづらい環境」になっています。
- ◆ さくらんぼを「絶対成らせる」ため、自園地の課題を分析し、対策を確実に実践しましょう！



- 【訪花昆虫】
- ① マメコバチのマユ洗浄の実施
 - ② ミツバチの導入 (20a に1群が目安)



- 【受粉樹】
- ① 切り枝の設置
 - ・「紅さやか」の枝を多く残し、開花前に切って設置
 - ② 高接ぎの実施
 - ・2月中に穂木を採取し、4月中に高接ぎ



- 【摘芽】
- ① 摘芽程度の見直し
 - ・例年より1芽多く残す
 - ・霜の常襲地帯では無摘芽

- ・結実が安定している園地は、「マメコバチ」と「ミツバチ」を併用している
 - 【マメコバチ】 比較的低温で活動、訪花数が多い
 - 【ミツバチ】 移動距離が長く、広範囲を訪花
- ・マメコバチの適切な飼養管理と、計画的なミツバチの導入で、結実を安定させよう！



マメコバチ

1 ヨシ巢の更新

○ヨシ巢の確認

- ・古いヨシ巢には天敵が寄生している。2～3年ごとの更新が必須



コナダニ類



カツオブシムシ



入口がふさがっている巣でも、天敵が蔓延している



○新しいヨシ巢の調整

- ・内径 5 ～ 7 mm の太さのものを使用
- ・節から 9 ～ 15 cm 程度に切り、束ねる
- ・10a 当たり、500 ～ 800 本程度を用意
- ☆ ヨシ筒内側の薄皮を除去することで、営巣率が向上

2 マユ洗淨の実施

○天敵被害を防ぐには、**マユ洗淨**が有効

(1) 実施時期

1 1月～3月上旬

(注) 遅くとも3月上旬までに
マユ洗淨を終了する

(2) 準備するもの

接木ナイフ、ステンレスボウル、ザル(2mm目程度、ステンレス製)、
網しゃくし、ハケ、育苗箱、新聞紙、紙箱(マユ保管用)

(3) 注意点

- ・2～3年以上使ったヨシ巢では、必ず実施
- ・気温が低い場所で、冷水を使う
- ・マユをつぶさないよう、丁寧に優しく扱う
- ・切開時に出るゴミは、園地外で処分する

(4) 作業手順

① 巢筒を切開する



- ・巢筒の端に接木ナイフを当て、上に持ち上げるように切開する

② マユを取り出す



- ・マユをつぶさないように取り出す
- ・切開後のヨシは適切に処分する

③ マユを冷水に浸す



- ・ステンレスボウルにマユを入れ、水を注ぎ、マユ全体が濡れるように浸し、かき混ぜるようにして汚れを落とす(約1分)

④ マユを洗淨する



- ・ボウルの上にザルを重ね、網しゃくしでマユをザルに移す
- ・ザルに少量の冷水を入れる
- ・ハケでマユをザルに優しくこすり付け、表面の汚れを落とす(約3分)

※上記の手順を3回程度繰り返す
網しゃくしとザルは、洗淨・交換しながら使用する

⑤ マユの乾燥・保管



- ・新聞紙の上にマユを広げ、冷暗所で約2日間乾燥させる(※ネズミの食害に注意)
- ・乾燥したマユを紙箱に入れ、冷蔵庫等の涼しい場所で保管

洗淨前



洗淨後



切開後の巢筒は焼却するか
園地外に埋めて処分する

3 洗浄マユの設置

(1) 設置時期

「佐藤錦」の発芽 10 日後
頃 (3 月末～4 月上旬)

↑ 設置時期の花芽

紙箱に鉛筆の太さ程度の穴を
複数あけて巣箱に設置 ↓

(2) その他

さくらんぼの開花とマメコバチの訪花を合わせるため、
ヨシ巢を冷蔵庫等の涼しい場所で保管し、開花に
合わせて巣箱に移動してもよい



4 増殖のための優良事例

(1) 冬期の作業

- 2～3 年を目安に**定期的にマユ洗浄を実施**
- ヨシは、**内径 5～7mm 程度**のものを使用
- エアーコンプレッサーやブラシで**薄皮を除去**

(2) 春期の作業

① 営巣環境の整備

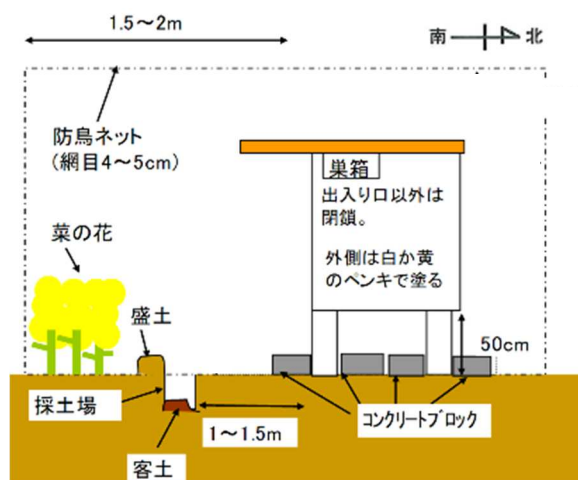
- 天敵を減らすため、**巣箱内を掃き掃除**

② 園地環境の整備

- **風上側に防風ネットを設置** (ハチの活動を阻害する場合があるため、全面被覆しない)
- **開花期間中は十分に灌水** (1 週間で 10a 当たり 20t 程度が目安)
- 開花期間中は**下草を除草しない** (訪花昆虫の餌源とするため)

③ 管理のポイント

- 鳥害防止のため出入口の金網に加え、**広めに防鳥ネットを設置**
- **多様な餌源を確保**
(菜の花、レンゲ、クラブアップル、啓翁桜等)
- マメコバチ保護のため、**殺虫剤散布時**
は、板等で**巣箱の出入口を遮断**
- **ドラム缶**は、夏季に高温になりやすい
ため、**木製の巣箱**に更新

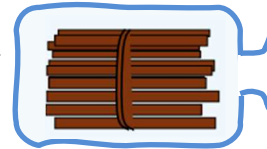


■ 巣箱設置の優良事例 (「マメコバチ利用・増殖の手引き」より)

※ 古いヨシ巢は 3 年を目安に処分する

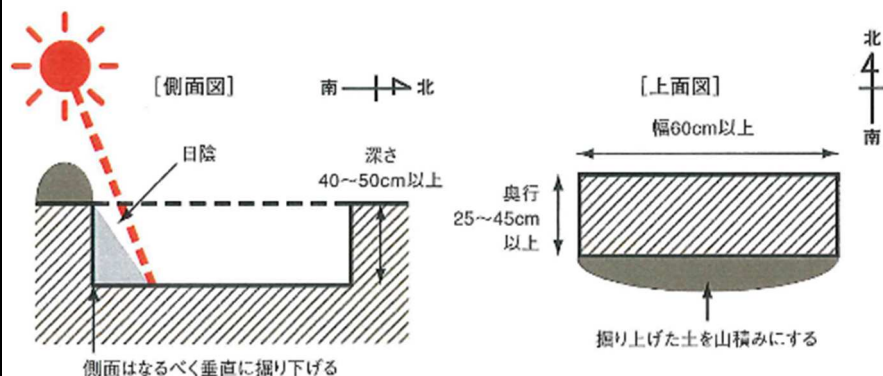


- ・マユを取り出した古い巢は、焼却又は園地外に埋めて処分する
- ・マユ洗浄をしない場合は、古いヨシを巣箱から出し、シート等で覆い (出口を作る)、地面に設置し、ハチが出た後に古い巢を処分する



④ 採土場設置のポイント

- **採土場は深く掘り** (40～50cm 程度)、掘った土を巣箱の反対側に盛土
- 穴を掘る代わりに、**バットに土を入れて設置**しても良い (**毎朝必ず給水!**)
- **保水性が高く、粘土質の強い土** (赤土や陶芸用の土等が適する) を使う



■ バットを使用した事例
(乾かないように毎朝給水)

(3) 夏期の作業

- 巣箱を**高温にしない**ため、断熱材等で**遮熱** (40℃を上回るような極端な高温では、マメコバチがマユの中で死ぬ)
- ヨシ巢に直射日光が当たらないように、寒冷紗等で**遮光** (熱気がこもらないように注意)
- ヨシ巢を小屋等の涼しい場所に移動して、保管してもよい



■ 断熱材を使用した事例
(ドラム缶は高温対策が必須)

(4) その他

- ハチマンションの利用で、マユ洗浄の効率アップ!
- ハチマンションはヨシ巢が入っていない巣箱に設置
- ハチマンションは自作可能
(杉板などの天然木材に、5～7mm のトリマーで溝を掘り、上下に重ねる)

市販のマメコバチマンションの例



■ 1セット両面で 114 穴、材質は杉板で、繰り返し使用が可能



■ 9月中旬開封時の
営巣状況



■ もみ袋とコンプレッサーで、
省力的にマユの取り出しが可能

【農作業安全】 剪定作業等、足場の悪いなかでの高所作業が増えてきます。雪上で脚立を使用する際には、足場をしっかり踏み固め、必ずチェーンをかけ、最上段には上らないようにしましょう。